

Optimal Nutrition and the Ever-Changing Dietary Landscape – A Conference Report

Andrew Shao, Adam Drewnowski, D. Craig Willcox, Lisa Krämer, Chris Lausted, Manfred Eggersdorfer, John Mathers, Jimmy Bell, R. Keith Randolph, Renger Witkamp, James Griffiths

European Journal of Nutrition: Volume 56, Issue (Suppl 1) (2017), Pages S1-S21

DOI 10.1007/s00394-017-1460-9

最適な栄養素と変化する食の環境 - 会議報告

要旨：

栄養学は過去 1 世紀にわたり、急速に進化しました。先進国の栄養学者や政策立案者は、取り組みの中心をこれまでの栄養不良による疾患から、過剰なカロリーやストレス、そして身体を動かすことの少ない生活などの状況に対処することを目的とした新たな枠組みへと移行しています。栄養学、テクノロジー、そして製造技術の進歩は栄養不良による疾患をほぼ根絶しましたが、同時に肥満や非伝染性疾病、加齢など、増大する課題に直面しています。栄養に関する研究は、個々の栄養素が細胞と分子レベルに与える影響の原因となるメカニズムを理解する熱意に基づいた還元主義的アプローチから始まり、必要な進化を成し遂げました。このアプローチは近年、食生活における広い意味での栄養の役割を理解する目的と共に、さらに包括的なアプローチとして普及しました。最終的に、このアプローチは栄養学、食生活、社会学、行動学および環境的な要因が複雑に入り組んだ相互作用、そしてどのように健康維持と健康促進に影響を与えるかという食の環境への完全な理解に到達することでしょう。

キーワード：加齢、ビッグデータ、生体作用、バイオマーカー、食習慣、栄養補助食品、長寿、微量栄養素、肥満、過食、植物栄養素、サルコペニア肥満、システムアプローチ、栄養不良、健康